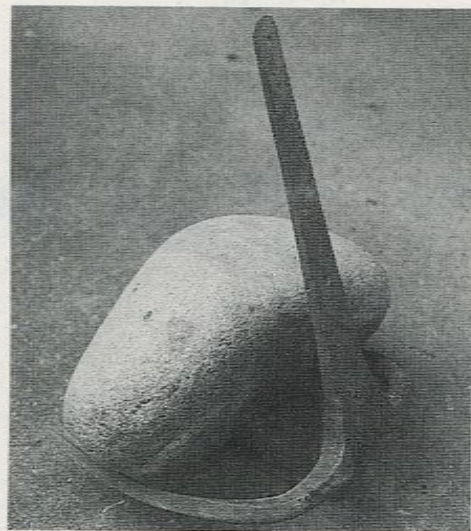


## 川とともに生きる ①

川の丸石は、建造物の土台、河川の護岸、道路の側溝、石垣など土木建築に欠かすことのできない資材でした。中でも直径四十〜五十センチの形の整った丸石は、木曾川の中流である牧野、小山、川合、太田の川原が格好の採取場でした。（上流では石が大きすぎ、角がとれていない。下流では小さすぎる）

このたび、渡辺元市さん（川合町）から、かつて使用していた川石採取用のマンガを寄贈いただきました。これは、明治の終り頃製作された大型の非常に頑丈なものです。船に乗り川底から拾い上げるためのマンガ、川原で石を起こすマンガなど、用途や人に合ったものを使い分けていたようです。

採取した石は、船で下流の間



川石を採取する道具〈マンガ〉

屋へ運びましたが、船底が暗礁に接触すると割れて沈みやすく、その操船には非常に気を使ったといえます。

\*

このほか、次の方々から貴重な資料を市教育委員会に寄贈いただきました。ありがとうございます。  
（平成三年三月分）

○馬打下駄ばうち ほか一点

（千賀音十さん／田島町）

○フシコキ ほか一点

（朝日亨さん／三和町）

○提灯、行灯あんどん、ほか五点

（朝日明さん／三和町）

○芝居弁当 ほか五点

（朝日義春さん／三和町）

○近世古文書 八点

（坂井平衛さん／蜂屋町）

○おひつち

（酒向るいさん／三和町）

○乳母車

（藤掛釧さん／三和町）

○木ザル

（朝日等さん／三和町）

○トアウチ

（村井一英さん／本郷町）

○イカキ

（酒向幸一さん／三和町）

○鞍、ムナガイ ほか二点

（朝日幸男さん／三和町）

情報は、市社会教育課（内線三六一）までご連絡ください。